



中部人懇だより

令和6年度 第1号
令和6年7月発行
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年(昭和46年)に発足しました。

「中部人懇」って
こんな会です!



【令和6年度懇談会 予定】

懇談会	期日	内容	対象
第1回	6月27日(木) <small>【実施済】</small> 14:00~16:30	講義・演習	小・中・高・特別支援学校の人権教育主任及び希望者
第2回	7月30日(火) 14:00~16:30	講義	小・中・高・特別支援学校の学級担任及び希望者
第3回	10月15日(火) 14:00~16:30	講義	保育所(園)、認定こども園等の参加希望者
第4回	11月16日(土) 9:30~11:30	講義	教育行政関係者 PTA会長、人権同和教育推進部長、部員

【第1回懇談会 報告】 期日:令和6年6月27日(木) 参加者 38名

人権教育の推進を図るために、同和教育が築いてきたものや培われてきた原則について理解をし、人権教育主任としての役割について考えることをねらいとして開催しました。

【講義】

「指導参考資料(教職員用)部落差別の解消をめざして」について

鳥取県教育委員会事務局人権教育課
田村 公顕 係長

「指導参考資料(教職員用)部落差別の解消をめざして」をもとに、若手教員へのサポートや指導についてや、授業改善、年間指導計画の見直し等について、お話いただきました。各学校においても、ぜひ活用をお願いします。

【講義・演習】

「同和問題をどう語り、伝えていくか」

元大阪教育大学教授
学級文化研究会代表
園田 雅春 氏



ご自身の経験をもとに、見えるところの向こう側を問うていくことや背景をくみ取っていくことの大切さをお話いただきました。また、差別はそっとしていなくてもならないことや学ぶことの大切さ、自分が大事にされていると実感できる「被尊感情」を育てていくこと、そして子どもたちの琴線に触れる学習をということについてもお話いただきました。

★今回の懇談会が、人権教育主任として、どのように組織的・計画的に取り組を進めていけばよいのか、考えていただくきっかけになればと思います。

情報交換より

◆同和問題学習について

- 小学校では、学校生活の中で心地よさを感じることに、中学校では、教科のあらゆる場面で心情に触れていくことが大切だと改めて感じた。
- 高校では、小学校中学校で培われた力を把握し、ICT 等も活用しながら高校生で付けたい力を意識して学習を積みあげていきたい。
- 中学校と高等学校では、内容等重なるところがあるので、もっと整理して互いに学習に取り組んで子どもたちの心を育てていきたい。

参加者の振り返り(一部)より

◆校内への学びの還元について

- ・指導参考資料は、担任の先生方への実践に向けての情報提供に活用できそうだった。じっくりと読んでみたい。
- ・人権尊重のために大切なのは、被尊感情を育てることだということ。子ども達の被尊感情を育てられるような前向きな言葉かけや働きかけをしていきたい。
- ・「学ばないということはゼロではない、むしろマイナスだ。」という言葉が印象に残った。無知であることは、周りの情報に惑わされてしまうことにつながるということが分かった。